

経営課題解決の新潮流「BPR」、 その取り組みは「コンサルから伴走支援へ

なぜ今「BPR」が注目されるのか

外部環境の変化が著しく、先行きを予測することも困難、かつ事業運営に欠かせない人材確保も厳しい状況が続いている。まさに、Volatility = 変動性、Uncertainty = 不確実性、Complexity = 複雑性、Ambiguity = 暖昧性が特徴の「VUCA」の時代。コロナ禍を経て加速しているビジネスシーンでのデジタル化だが、業務改善（足りない部分にビースを埋めていく）では、眞の経営課題解決にはならない。そこで注目を集めているのが「BPR（業務改革）」だ。大企業から始まり、今や企業規模に関係なく取り組みが始まっている。

なぜ、BPRに取り組むのか。企業を取り巻く環境の変化が激しい状況下で、小さな改善で得られない企業を

「伴走支援」にこだわる理由

九州最大規模のシステム開発会社、(株)シティアスコム（福岡市、池田勝社長）が提供する企業の課題を解決する自社開発『CAPTAIN CAES』シリーズのBPR支援サービス（CAES : City Ascom Escort support service）は、あえてコンサルティングではなく、「伴走支援」としていることが特徴。

BPRに向けて準備すべき4つのこと

PRで重要なのは、継続的に自走することと捉えていることがその最大の理由だ。自分たちで考え、自分たちで実行することが「成功への鍵」と考えているのだ。

さらに、BPRの取り組みを成功に導くために企業が準備すべきことを次の4つと定義している。

- ①経営層はビジョンを明確にする
- ②ビジョンを社内に浸透させ、課題を共有する
- ③全社プロジェクトとして捉え、プロジェクトメンバーを選出し、役割の明確化と権限を付与する
- ④自社で不足する部分は、外部の知見を利用する

シティアスコムは、創業55年目を迎える、これまで多くの企業のシステムを支えてきた実績がある。ITのプロとして企業に寄り添い、ITのプロだからこそ業務を優先し、最新技術を最大限に活用した解決策を実現できる。そんなBPRこそ、VUCAの時代を生き抜くために企業力をアップする



ITのプロ集団による、課題解決に向けた伴走支援サービス

1. 徹底的に寄り添う伴走支援
課題解決の主役は、あくまでお客様。社員一人一人が納得してこそ、本当の課題解決の道が拓けると信じています。

2. ITのプロとして2つの視点でデジタル化を支援
社内では見えづらい業務課題を第三者視点で、解決策となるデジタル活用についてシステム目線でアドバイス。

BPR(業務改革)

社員主導で実施するBPRのメリット

- 業務効率化
- 生産性向上
- 顧客満足度向上
- コスト削減
- 従業員満足度向上

企業全体の活性化

VUCAの時代を生き抜くために企業力をアップする

Microsoft365定着化支援

グループウェアの「橋渡し」による“業務全体の最適化”的実現

チャットによる迅速なコミュニケーション

データ連携による情報の一元化

販売管理システム

人事・会計システム

ノーコード開発伴走支援

業務改善を阻害する主要な問題

IT人材不足	組織文化とデジタル変革の隔たり	限られた予算
--------	-----------------	--------

ノーコード開発の伴走支援で課題解決

内部スキルの強化	従業員主導のデジタル改革	コストを抑えたシステム導入
----------	--------------	---------------

継続的トレーニングプログラムによるスキル向上

積極的に参加できるデジタル化プロジェクト

ノーコードツールで初期投資とメンテナンスコスト削減